

- 皮膚と全身状態 疲労したり、睡眠不足で気分がすぐれない人の皮膚は、青ざめて艶がなくなるなど、全身状態と皮膚は密接な関わりがある。

貧血・・・・・・・・皮膚が青白くなる

胃がん・・・・・・・・皮膚は暗黒色のきたない色となりシミができたりする。

心臓が悪い・・・・・・・・血液の循環がうまくいかなくなり、チアノーゼという状態になり、皮膚が紫色を帯びる

心臓や腎臓の悪い状態が続くと・・・・・・・・皮膚むくむ

肝臓障害・・・・・・・・黄疸になり、皮膚が黄色になる。

糖尿病(膵臓機能障害)・・・・・・・・化膿しやすく、細菌や真菌による皮膚疾患などにかかりやすくなる。

→ひどい場合は、腎不全・失明・足の潰瘍で切断・知覚鈍麻になることもある。

- 皮膚と精神

心配事などがあると血色が悪くなったり、疲労が重なると皮膚につやがなくなったりする。

精神状態が皮膚疾患の経過に影響を及ぼすことも少なくない。

ストレスにより・・・・・・・・月経が止まったり、円形脱毛症になったりする事もある。

アトピー性皮膚炎がひどくなることもある。 『病は気から』は迷信とはいきれない。

- 皮膚と栄養 皮膚の真の栄養は体内から血液などにより得られる。(化粧品、クリームなど皮膚表面からではない)

- 皮膚の水分と脂の状態

皮膚の保湿は美容上大切な機能である。

○シワ

老化にともなって皮膚の張りや弾力が失われると、たるみが生じ、シワとなる。

老化：個人の素因、環境の要因を受け比較的規則正しく劣化していく。

シワの原因・・・・・・・・表皮の乾燥

真皮の細胞間基質・膠原繊維・弾性繊維の減少

○老人性乾皮症・・・・・・・・歳をとるにつれ、皮膚の分泌作用も新陳代謝も低下する。

⇒ 水分不足 ⇒ 乾燥 ⇒ 皮膚は硬くなる

- 皮膚・付属器官とホルモン

○男性ホルモンと皮膚

男性ホルモンの影響によって、脂腺が発育して皮脂の分泌が増加するため、

思春期になると、角質層は厚くなり、あぶら性の皮膚に傾いてくる。

男性ホルモンは、脂腺の発育を促すので、思春期以後になって、ニキビや脂漏が目立ってくる。

- 皮膚の保護と手入れ

○皮膚の手入れ

石鹸を使用すると皮膚表面の皮脂膜がすっかり除去されてしまうため、荒れ性の人では皮膚が

荒れたりすることがある。このような人は、入浴後にクリームなどを塗っておくとよい。

○ひげそりあとの皮膚の手入れ

ひげそり後は、皮膚が荒れてあぶら気がなくなっているため、アフターシェービングローションやクリームを塗っておく必要がある。

ひげそりの際の切り傷がもとでカミソリカブレを起こしやすいので細菌感染を防ぐようクリームや殺菌剤を混ぜたクリームを使用する。

○フケ症の手入れ

フケ症には油性のフケ症と乾性のフケ症がある。

油性のフケ症 ⇒ 皮脂の分泌が高まり、べっとり湿ったフケが付着している。

よくシャンプーして汚れやフケを落とすことが大切。

乾性のフケ症 ⇒ 油気のないカサカサしたフケで、ひっかくと白っぽい糠のようなフケが落ちてくる。

シャンプーをしすぎないようにし、シャンプー後は毛にはリンスを用いる。

○紫外線に対する皮膚の手入れ

長波長紫外線 (UVA) ・ ・ ・ ・ ・メラニンが生成され皮膚の色を黒くさせる。(サンタン)

中波長紫外線 (UVB) ・ ・ ・ ・ ・皮膚に対する刺激が強く、急激な作用で紅斑を起こす。(サンバーン)

サンスクリーン剤が紫外線を吸収する作用をもつので有効である

○皮膚表面のpHと化粧品

皮膚の表面は弱酸性(pH4.5~6.5)を示す

汗のpHは皮膚表面に分泌された直後では酸性であるが、汗の分泌が多くなったり、長くその部位にとどまっているとアルカリ性に傾く。またアポクリン腺のある部位では、アルカリ性に傾いている。

・皮膚はアルカリ性のものが付着しても中和する働きがある。(アルカリ中和能)

健康な人は化粧品を選ぶ場合、pH値を気にしなくてもよいが、中和機能が低下している

人は、弱酸性の化粧品を選ぶようにする。

●皮膚炎

○接触皮膚炎（カブレ）

アレルギー性のカブレ・・・カブレが起きた場合、薄い濃度でもかぶれるので、薄めても効果はなく使用をやめなければ治まらない。

※カブレの予防で最も重要なことは、その原因となるものに再び触れないようにすることである。

※カブレの原因を発見するには、パッチテストが行われる。

パーマネットウェーブ用剤によるカブレ・・・第1剤のチオグリコール酸による

染毛剤（白髪染め）によるカブレ・・・酸化染毛剤に用いられる酸化染料のパラフェニレンジアミン

・いったんカブレるとどんな低濃度であっても、必ずかぶれる。

・使用のつどパッチテストをする事

○アトピー性皮膚炎

大部分は思春期までに治る。

夏の発汗、冬の乾燥、ダニ、ハウスダストなどに対するアレルギーが関係する。

ストレスにより増強されることも多い。

遺伝の傾向がみられる。

○脂漏性皮膚炎

フケ症や、あぶら性の人に多い皮膚炎

ポマードやツバキ油などの油性の整髪料を使用しないようにする。油性の化粧品の使用もよくない。

石けんでよく洗うことが大切であり、入浴回数を増やし、しばしばシャンプーする。

●温熱・寒冷による皮膚疾患

○熱傷

第1度熱傷（表皮熱傷）・・・局所が赤くはれ、ヒリヒリした灼熱感があるが、数日であとを残さず治る。

第2度熱傷（真皮熱傷）・・・痛みも強く、水泡をつくる。瘢痕を残す場合と残さない場合とがある。

第3度熱傷・・・真皮全体または皮下組織、あるいはそれ以上深く焼ける。

治療には相当長時日を要し、瘢痕を残し、ときにケロイドとなる。

●角化異常による皮膚疾患

落屑が目立つ病気と角質層が厚くなる病気がある。

機械的刺激が絶えず加わると、タコ、ウオノメとなる。（角質が厚くなる）

遺伝的に角質層が厚くなってざらざらし、皮膚が乾燥する病気はサメハダと呼ばれる。

●色素異常による皮膚疾患

○雀斑（ソバカス）・肝斑（シミ） ⇒ 日焼け止めクリームを塗る。日光に当たらないようにする。

○尋常性白斑（シロナマズ） ⇒ メラニンがつかられなくなったために起こる。

●分泌異常による皮膚疾患

○尋常性性創（ニキビ） ⇒ 発生には性ホルモン（男性ホルモン）が関係する。

男性ホルモンは脂腺の働きを高め、皮脂の分泌を増加する。

→皮脂を栄養源としているアクネ桿菌や真菌が増殖

→菌の刺激により角質が増加 →毛孔がふさがれてくる

→皮脂が表面に出ることができず、毛包の中につまる。（コメド）

→炎症を起こす

○腋臭症（ワキガ） ⇒ 腋窩のアポクリン腺から分泌される汗に、刺激性のにおいがあるものをいう。
アポクリン腺が機能を開始する思春期になって発症する。

●化膿菌による皮膚疾患

○伝染性膿痂疹（トビヒ） ⇒ トビヒの膿がほかの皮膚について感染するため、膿がほかの部分につかないように注意する。

○毛包炎・癬・癰 ⇒ 顔面にできると、特に面疔といって警戒されたが、抗生物質が有効

●ウイルスによる皮膚疾患

○帯状疱疹（帯状ヘルペス） ⇒ 神経痛のような痛みをとまなう。

○疣贅（イボ） ⇒ 尋常性疣贅・青年性扁平疣贅などがある
(老人性疣贅は老化現象であり、ウイルスによるものではない)

●真菌による皮膚疾患

○頭部白癬（シラクモ） ⇒ 最近ペットブームの影響で、ペットからの感染により再び見られる様になった。

●動物による皮膚疾患

○疥癬（ヒゼン） ⇒ ヒゼンダニという一種のダニの寄生によって起こる。
非常にかゆい。
感染力が強い。

●毛の疾患

○男性型脱毛症 ⇒ 男性ホルモンの何らかの異常が関係するとされている。
・完全に予防や阻止は出来ないが、フケの手当や血行促進がある程度の進行を阻止できる。

○円形脱毛症 ⇒ ストレスが加わると発症することが分かっている。
再発が多い。
感染しない。

・ケア・・・血行をよくする
マッサージをする